

# チャレンジ精神に満ちた パッケージソリューション・プロバイダー

2017年12月期第1四半期決算説明資料



竹本容器株式会社

(東証2部 4248)

2017年5月12日

# 資料構成

1. 2017年12月期第1四半期トピックス

2. 2017年12月期第1四半期業績概要



# 2017年12月期第1四半期トピックス

## インドにおける工場建設に着手

当社グループでは、2016年8月にインド国グジャラート州アーメダバード市に TAKEMOTO YOHKI INDIA PRIVATE LIMITEDを設立、2020年台に世界一の人口国となるインドでの生産拠点設置へ向けて準備を進めてまいりましたが、グジャラート州サナンド市の工業団地内において工場建設に着手いたしました。

所在地：Sanand- II industrial estate, Sanand, Gujarat, India

工場敷地面積：23,395㎡

着手年月：2017年4月

完成予定：2018年1月

【インド新工場イメージ】



# 資料構成

1. 2017年12月期第1四半期トピックス

2. 2017年12月期第1四半期業績概要



# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 2017年12月期第1四半期連結決算ハイライト

- ・スタンダードボトル、カスタムボトルとも需要が伸び売上高は続伸
- ・昨年完成の日本国内の二工場と研究開発用の資産に係る減価償却費負担増加し、営業利益・経常利益は減少

	2016年1-3月 ¥17.60/RMB ¥115.35/USD	2017年1-3月 ¥16.56/RMB ¥113.60/USD	前年同期比		2017年計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	百万円 3,205	百万円 3,442	百万円 + 236	+7.4%	百万円 + 249	+7.8%
営業利益	368	320	△ 47	△12.9%	+ 23	+7.9%
売上高営業利益率	11.5%	9.3%	△2.6 P	—	+0.0 P	—
経常利益	371	330	△ 41	△11.1%	+ 36	+12.6%
四半期純利益	249	252	+ 3	+1.3%	+ 49	+24.7%
減価償却費	181	239				
設備投資額	400	452				
(うち 金型)	88	115				
EBITDA	549	560				

# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 地域別グループ企業業績

日本

百万円

	2016第1四半期	2017第1四半期	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,552	2,698	+146	+5.7%	+154	+6.1%
営業利益	302	245	△ 57	△19.0%	+ 18	+8.0%

### 売上変動要因

- ① 顧客企業の業績好調による、化粧品向けを中心とした需要の増加
- ② 開発提案型営業によりカスタムボトルの売上増加

### 利益変動要因

- ① 売上総利益率が低い他社製品売上の増加による、売上総利益減少
- ② 昨年稼働の結城事業所印刷棟、岡山事業所の減価償却費負担増
- ③ プラスチック原材料価格は上昇傾向にあるものの、前年同期比では利益増加要因（10百万円負担減）

# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 地域別グループ企業業績

中国 ※（）内はRMBベース

百万円  
(百万円)

	2016第1四半期 ¥17.60/RMB	2017第1四半期 ¥16.56/RMB	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	652 (37)	729 (44)	+76 (+6)	+11.7% +18.7%	+75 (+1)	+11.5% +4.4%
営業利益	60 (3)	81 (4)	+21 (+1)	+36.4% +44.9%	+2 (△0)	+3.6% △3.0%

### 売上変動要因

- ① 開発提案型営業によりスタンダードボトル、カスタムボトルとも売上増加
- ② 為替変動の影響は前年同期比で円換算額減少（▲45百万円）、計画比で円換算額増加（+44百万円）

### 利益変動要因

- ① 売上増加に伴う、売上総利益絶対額の増加
- ② プラスチック原材料価格は前年同期比上昇（10百万円負担増）
- ③ 為替変動の影響は前年同期比で円換算額減少（▲5百万円）、計画比で円換算額増加（+5百万円）

# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 区分別販売実績

### 販売先の主要事業内容ごとの販売実績

- ・スタンダードボトルの品揃え強化と開発提案型営業の展開により、全区分で売上は増加

区分	2016第1四半期		2017第1四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
化粧・美容	2,012	62.8	2,092	60.8	+80	+4.0
日用・雑貨	149	4.6	152	4.4	+3	+2.1
食品・健康食品	302	9.4	314	9.1	+12	+4.1
化学・医薬	149	4.7	160	4.7	+10	+7.3
卸、その他	592	18.5	722	21.0	+129	+21.9
合計	3,205	100.0	3,442	100.0	+236	+7.4

※上記区分は販売先の主要事業内容により分類したものであり、販売先における実際の用途と上記区分名称は異なる場合があります。



# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 区分別販売実績

### 製商品の内訳ごとの販売実績

- ・日本国内で他社製品を使用した売上が継続して増加
- ・開発提案型営業の推進により、日本、中国でカスタムボトル売上増加
- ・2016年第1四半期の材料その他の販売実績は販売区分見直し後の数値を表示している

区分	2016第1四半期		2017第1四半期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
自社製品 (スタンダードボトル)	2,410	75.2	2,434	70.7	+24	+1.0
顧客金型製品 (カスタムボトル)	336	10.5	384	11.2	+47	+14.2
他社製品	380	11.9	548	15.9	+168	+44.3
材料その他	79	2.5	75	2.2	△3	△5.0
合計	3,205	100.0	3,442	100.0	+236	+7.4

※上記区分は以下により分類しています

自社製品：当社所有の金型を用いて生産した製品（スタンダードボトル）

顧客金型製品：顧客が金型費用を負担している製品（カスタムボトル）

他社製品：顧客の要望等により他社から仕入れた品物

材料その他：協力メーカーへの原材料を販売した物等

# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 金型（新製品）開発状況

当社グループでは、中国子会社で手掛けている金型製作工程の一部内製化の施策を進行させるとともに、金型設計標準化ならびに金型開発体制の拡大強化を行うことで、2019年には日本、中国、その他の地域向けの金型合計で、400型超の金型を開発することを新たな中期目標として設定しています。

2017年第1四半期の金型製作の進捗状況（新規製品の増加の状況）は下表のとおりです。

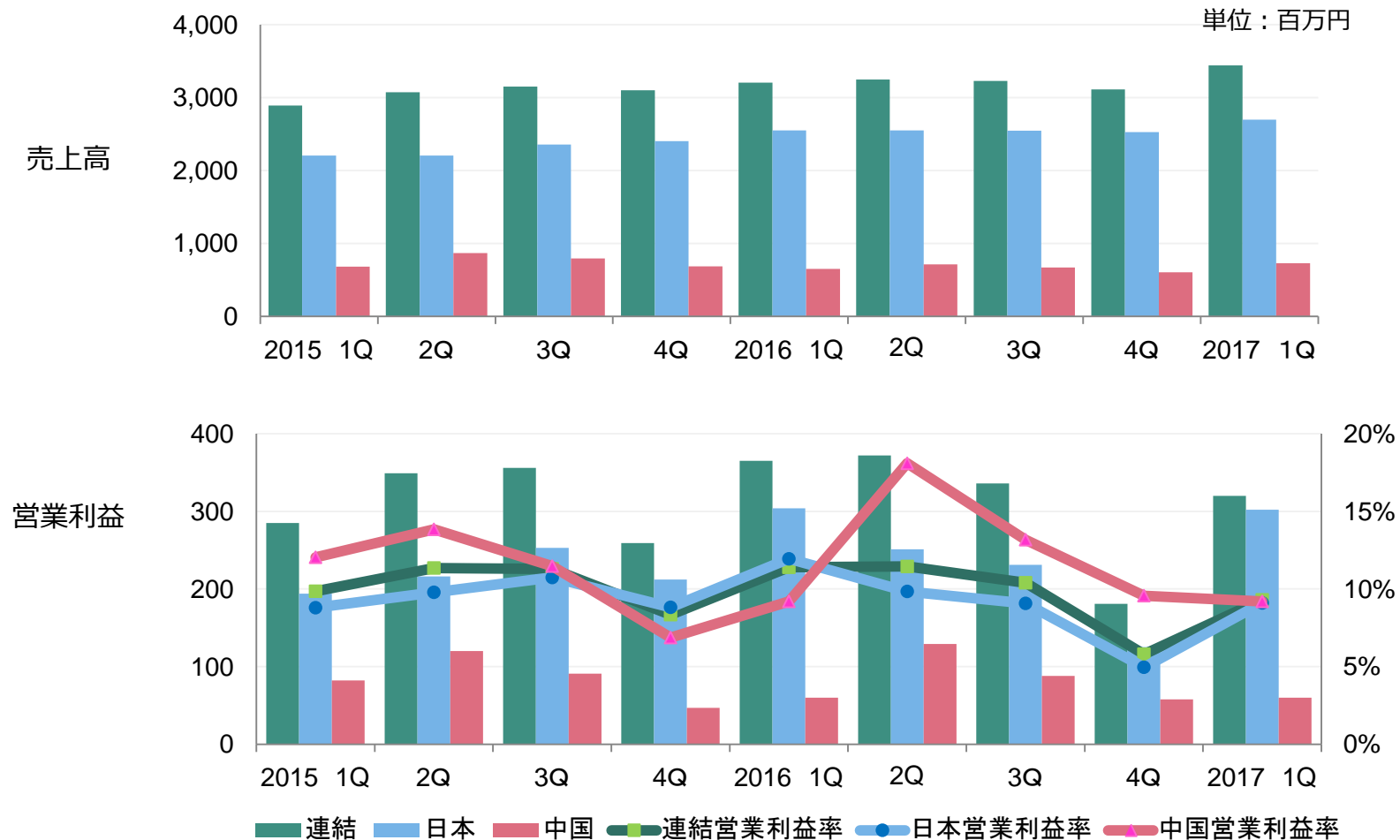
	金型数		
	2017年第1四半期 完成金型数	製作中	合計
日本	45 (16)	28 (2)	73 (18)
中国	24 (8)	103 (13)	127 (21)
合計	69 (24)	131 (15)	200 (39)

※表の（ ）は内数でカスタムボトル用金型

2017年3月末時点での自社金型数は3,131型となっている。

# 2017年12月期第1四半期業績概要

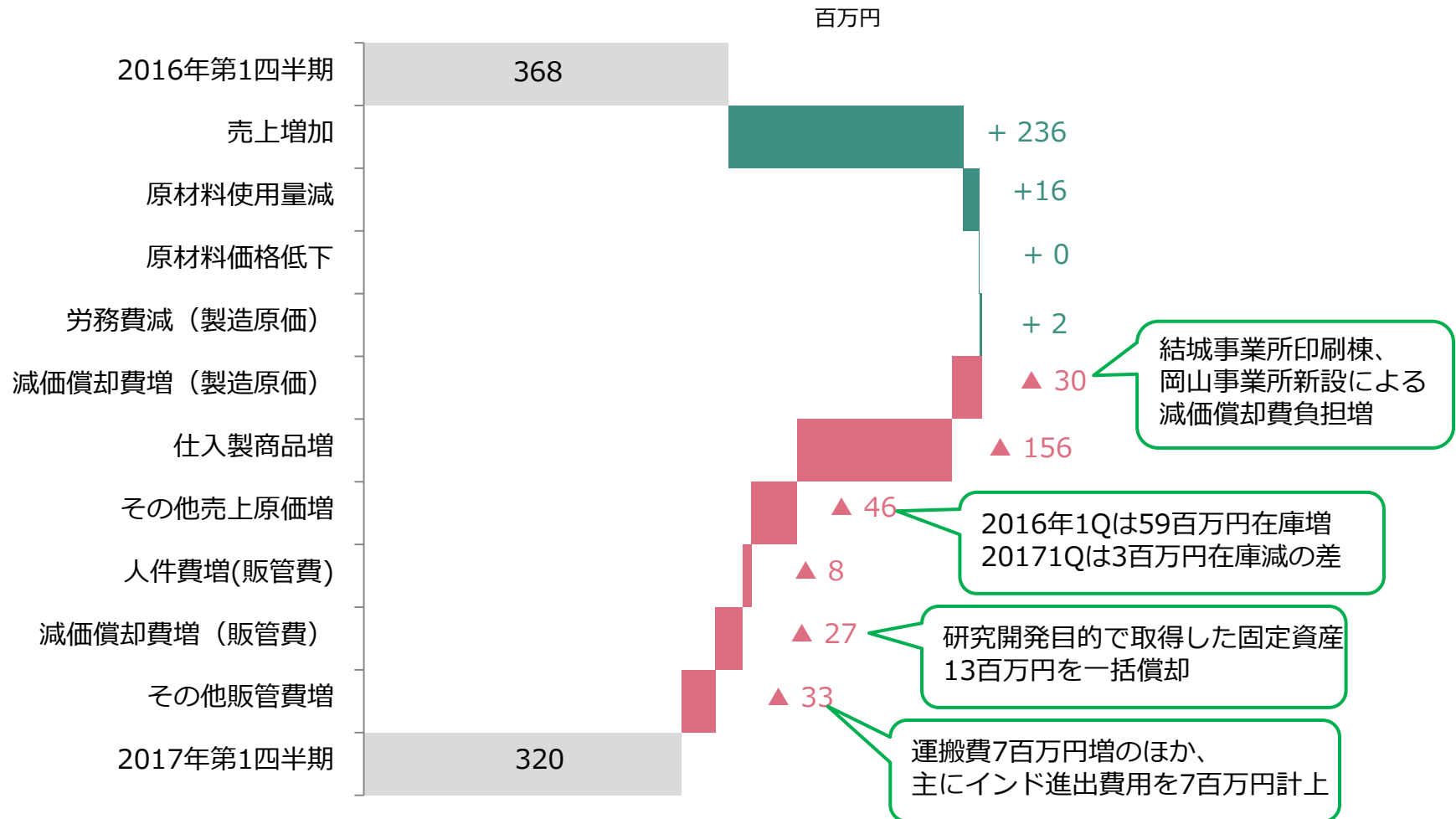
## 2015年以降の四半期業績の推移



※日本、中国はそれぞれ当該地域のグループ企業業績を示している

# 2017年12月期第1四半期業績概要

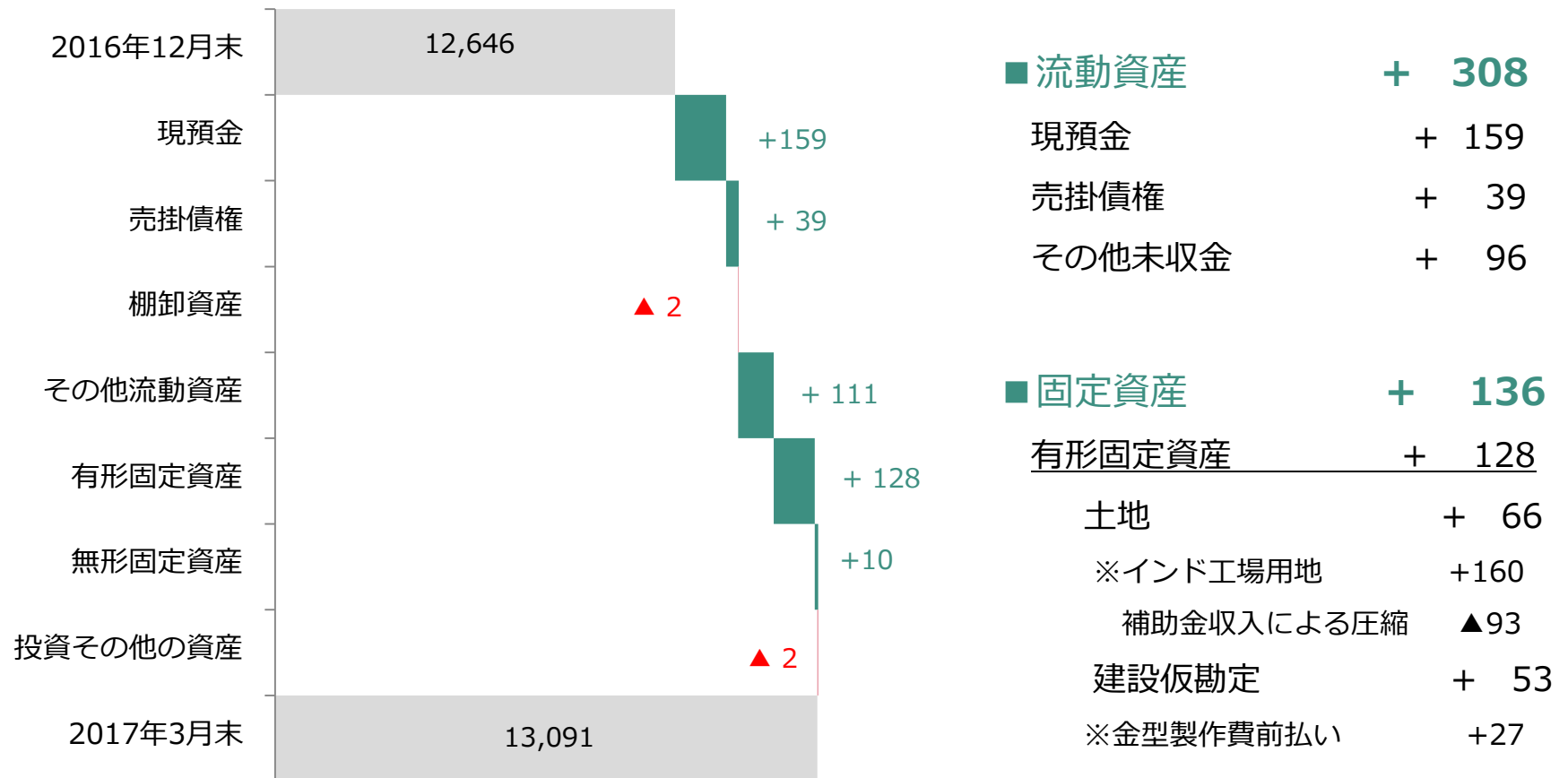
## 2016年12月期 営業利益の変動分析



# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 2017年12月期第1四半期 連結貸借対照表 資産の部

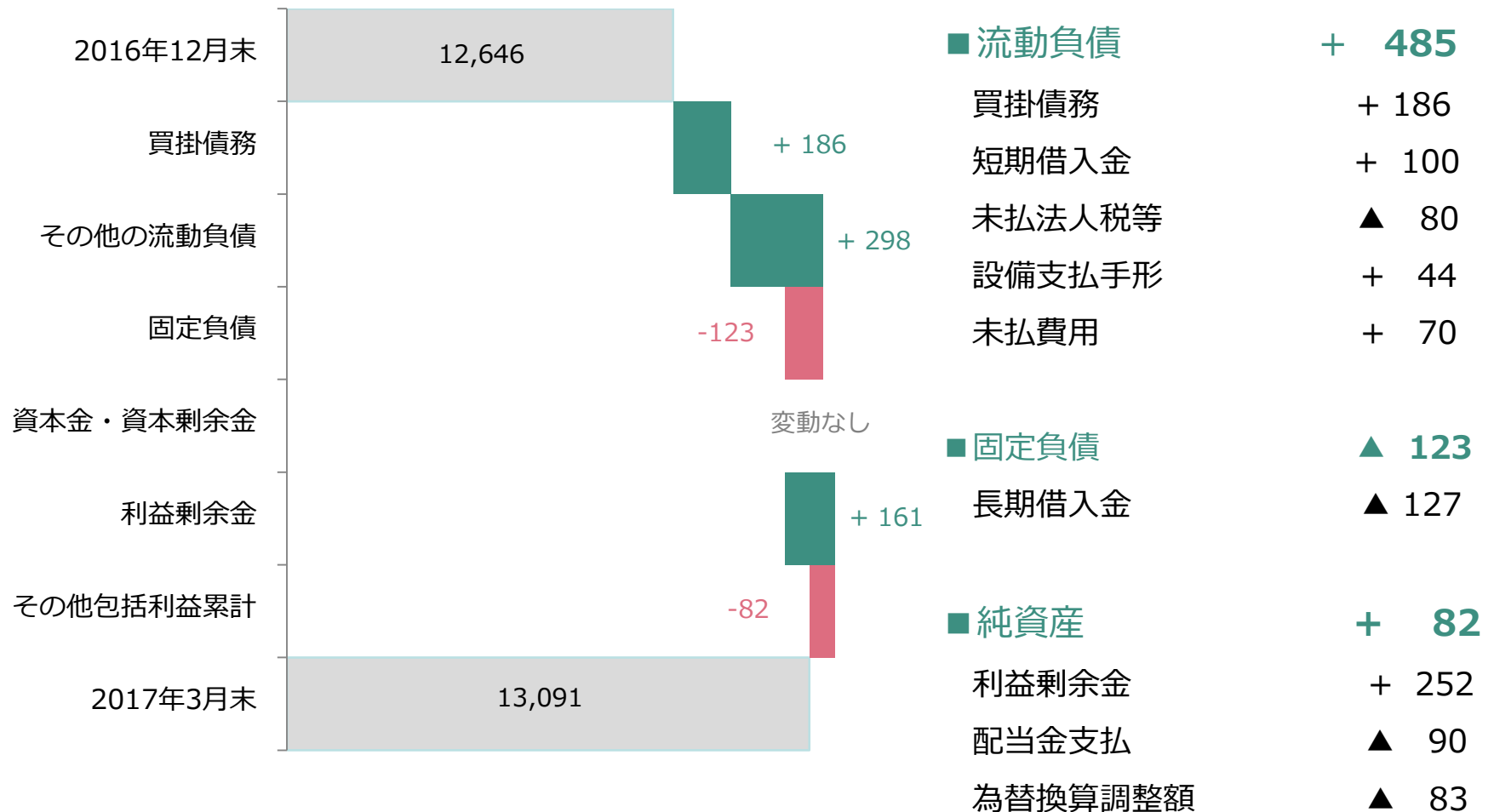
百万円



# 2017年12月期第1四半期業績概要

## 2017年12月期第1四半期 連結貸借対照表 負債・純資産の部

百万円



## 参考資料

### 会社概要

会社名	竹本容器株式会社
事業内容	プラスチック製容器等の製造・販売
設立年月日	1953年(昭和28年)5月19日
代表者名	代表取締役社長 竹本 笑子
本社所在地	東京都台東区松が谷二丁目21-5
資本金	3億3,205万円
発行済株式数	5,682,200株 (1単元の株式数 100株)
株主数	3,348名(1単元以上保有)
グループ従業員数	910名

※ 数字はいずれも2016年12月末時点

「挑戦」なくして進化なし